

二面温泉区が本山を担当していた。

来、毎年薬師如来の縁日であった。しかし、休日の関係などに変更して行っている。



大勢の家族連れでにぎわう鯖江かたかみ春たんぼ93

模擬店や即売人気

多彩にかたかみ春たんぼ

鯖江

鯖江かたかみ春たんぼ'93 (福井新聞社後援) は二十九日、鯖江市の片上公民館前広場で開かれた。霊峰文殊山のふもとに広がるのかな田園地帯の魅力を知ってもらおうと、同市片上地区が恒例で開催している春祭り、大勢の家族連れでにぎわった。

広場には地区内八つの町内会ごとに婦人会や壮年会、老人会が十五張りのテントを並べ、模擬店を開いた。わら工芸や野菜、うどん、そば、みそなど手づくりの品が販売されたほか、おもちゃやパーベキューのコーナーなどもあり人気を集めた。

また「文殊の知恵比べクイズ」も随時開催。模擬店十軒の前に「文殊山は泰澄大師が開きましたか」「文殊山の標高は約三百七十坪ですか」など一問ずつが張り付けられ、参加者が答えをいった。全問正解者の中から抽選で十人に「文殊の知恵」にあやかって辞書が贈られた。

館内では写真九十一点が展示され、地区の四季折々の変化の様子を紹介。午後には「ジャンボ手巻きすし大会」が開かれ、百三十人の親子が長さ五十坪のすしづくりを挑戦した。

会場ではこのほか、'95世界体操選手権組織委員会がテントを構え、マスケットキャラクター・ピタリの人形やTシャツなどを販売。

伝説の比丘尼

空印寺で市民

人魚の肉を食べ八百歳まで生きたと伝えられる八百比丘尼ゆかりの小浜市男山、空印寺(岸本孝道住職)で二十九日「八百姫菩薩(ぼさつ)春季例大祭」が行われ、市民約四十人が比丘尼をしのんだ。

宮内省の職員が、この祭りに参加し、お祈りを捧げた。また、お茶を淹れ、お菓子を食べた。お祈りを捧げた。また、お茶を淹れ、お菓子を食べた。